

人材育成WG

令和6年度活動計画案

令和6年度活動計画案	P2
参考図：①活動の全体図	P3
②知識/知見とスキルの還流を目指して	P4
令和6年度活動計画案__具体策①～④	P5～P8
スケジュール案	P9

令和6年度活動計画案（人材育成WG）

命題：ビジネスに気象データを活用できる人材の裾野拡大と先導者の育成

施策：ビジネスへの気象データ活用に必要な3つのスキル※を養成するための活動を企画・実施

※3つのスキル：①気象データ理解力、②IT活用力&データ分析力、③ビジネスの課題解決力/新規発想力

活動：人材の裾野拡大を目指す「広める活動」 & 先導者育成を目指す「深める活動」の2系列で展開

【広める活動】 セミナーや研修を開催し、蓄積・体系化された知識やスキルを広く伝播する

【深める活動】 自主的な活動（調査、研究、考察、実証等）で自らの知見とスキルを深める
蓄積・取得した知見やスキルを発信・伝播し、先導者になることを目指す

◆過去7年間に亘る活動を通して、**目指す人材の裾野拡大は着実に進み、先導者育成は今後の展開が期待できる**状況にある。

→令和6年度は、**現行の活動を基本的に継続し、状況に応じて活動の拡充を図りつつ、特に気象データのビジネス活用を先導、推進できる人材の育成に注力していきたい。**

◆「気象データ × IT活用 × データ分析」のスキル醸成を目指す「**気象データ分析チャレンジ！**」では研修のレベルが**あがるに従い、受講者のコメントに具体的な適用を意識したものが増加する傾向**がある。

→**このような状況も勘案し、新たな推進策の検討と具体化を目指していきたい。**

◆産業分野における気象データのビジネス活用を推進するには、**ユーザー側とシーズ側の連携・協働の場作りが必須**であり、**現場の生の声を聴くことが何より重要**とこれまでの活動を通して学んだ。

→**今年度も、引き続き、ユーザー側とシーズ側の連携・協働の場作りを進め、場作りを通じた人材の育成を目指していきたい。**

WG内活動に関する課題：

1. グループ別勉強会間の交流・連携を推進し、深める活動の更なる進化と深化を目指す
2. 新規WG参加者が、WG活動（全体会議、グループ別勉強会等）に参加し易い環境作り/馴染める雰囲気作り、特に、若手メンバーが参加し易くなる方策を検討・試行する

参考図①：活動の全体図

命題：ビジネスに気象データを活用できる人材の裾野拡大と先導者の育成

施策：【広める活動】セミナーや研修を開催し、蓄積・体系化された知識やスキルを広く伝播する
 【深める活動】自主的な活動（調査、研究、考察、実証等）で自らの知見とスキルを深める

広める活動

【WXBC全体活動】

WXBC気象データのビジネス活用

セミナー〈座学〉（2017年7月開始）

- ・気象データ利活用の有意性を訴求
- ・気象データ解説と事例紹介の2テーマで開催

気象データ分析チャレンジ！

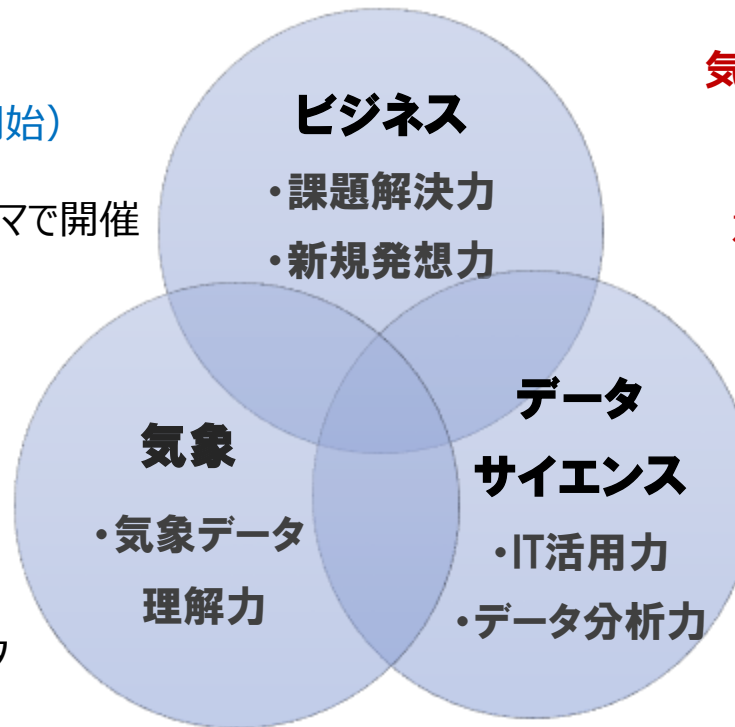
〈演習中心〉（2017年11月～）

- ・IT活用&データ分析のスキル向上
 - アメダスデータ
 - 気象庁GPVデータ
（アンサンブル予報データを含む）
 - 農研機構メッシュ農業気象データ

地方展開

（2017年10月～）

- 講演
- 意見交換会 等



ビジネスへの気象データ活用に
 必要な3つのスキル

深める活動

【外部研修機関】

気象データアナリスト育成講座

（2021年10月開講）

- ・気象庁からの依頼をもってガイドラインの見直し作業に協力
- ・講座定着への協力・支援

【人材育成WG内活動】

グループ別勉強会

（2020年7月開始）

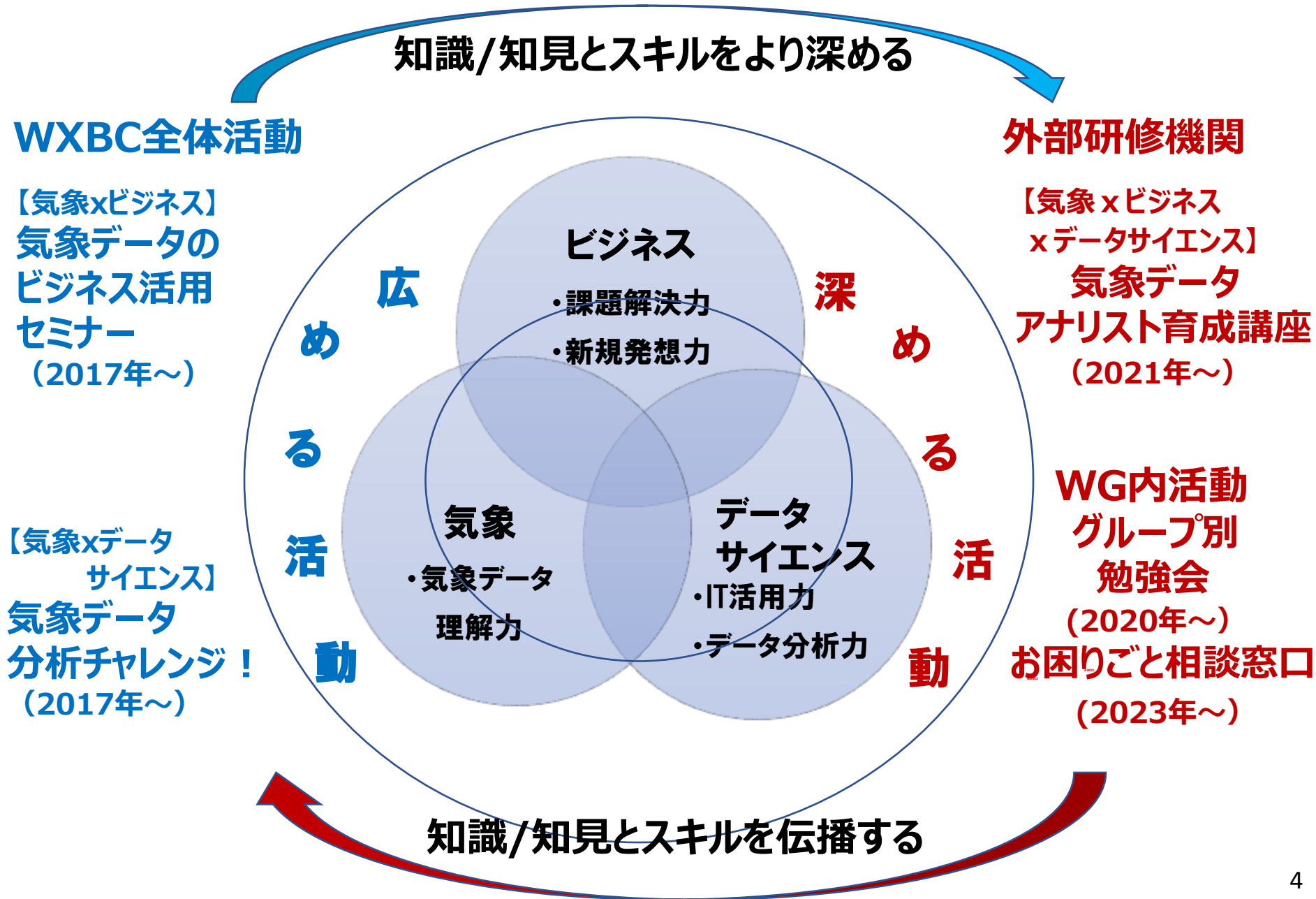
- ・ニーズとシーズの連携・協働の場&人材育成(モデルケース作り)
- ・調査・研究・考察・実証
- ・自己研鑽&切磋琢磨

お困りごと相談窓口

（2023年11月開始）

- ・WGメンバーが抱えるお困りごと相談を受け、解決方法や道筋を共に検討

【参考図②】知識/知見とスキルの還流を目指して



命題：ビジネスに気象データを活用できる人材の裾野拡大と先導者の育成

施策：【広める活動】 セミナーや研修を開催し、蓄積・体系化された知識やスキルを広く伝播する

**【深める活動】 自主的な活動（調査、研究、考察、実証等）で自らの知見とスキルを深める
蓄積・取得した知見やスキルを発信・伝播し、先導者になることを目指す**

【活動内容】

1. 広める活動

- ・気象データに関する知識と活用スキルを習得できる場として、セミナーや研修を継続する
- ・セミナーや研修を可能な限りオープン開催とし、気象データと利活用に関する知識/知見とスキルを有する人材の裾野拡大に繋げる

具体策：

- ①ビジネスWGと共同し、「**WXBC気象データのビジネス活用セミナー**」を企画・実施（オンライン開催）
- ②気象データ理解力向上への取り組み強化として、「**WXBC気象データのビジネス活用セミナー（気象データ解説編）**」を企画・実施（オンライン開催）
- ③アメダスデータ、メッシュデータ（アンサンブル予報を含む）をメインに「**気象データ分析チャレンジ！**」を企画・実施（オンライン開催）
- ④**地方セミナーや研修、モデルケース横展開等**への協力・支援

2. 深める活動（自主的な活動（調査、研究、考察、実証等）で、自らの知見とスキルを深める

- ・2020年度に開始した「グループ別勉強会」を継続し、下記の進展に注力する
 - ①ユーザー側とシーズ側の連携・協働の場づくりを推進し、連携・協働を通して人材の育成を図る
 - ②情報・経験の共有、議論、調査・研究、考察、実証等の活動を通して、仲間と共に学び、自らの進化と深化を図る
 - ③深める活動で蓄積・取得した自らの知見やスキルを発信・伝播し、先導者になることを目指す
- ・随時、新しいテーマの勉強会を加え、勉強会活動の更なる進化と深化を目指す

具体策：

1) WG内グループ別勉強会活動

①農業分野勉強会：多様な気象データの活用、高度利用で日本農業を元気に！

- 令和6年度は、共創の場（CoP）を通じて『**徹底的に現場の声を伺う活動**』を継続し、積上げてきた勉強会の姿をさらに拡充・深化させ、“志”の成就をめざしてゆく。

②再生可能エネルギー勉強会：再エネと気象の関わりを正しく理解するための知識を身に付け、普及に貢献！

- テーマとしては、目的、用途によって、再エネを使い分ける“**エネルギーミックス**”を新たなテーマとして加え検討を推進。
- データ分析としては、新たに“**生成AI**”活用の観点から事例やサービスを取り上げていきたい。
- 教育コンテンツに関しては、2月より大竹リーダ復帰に伴い、方針を詰める方向。
 - * 新たな切り口として、文科省が進める“デジタル・トランス・フォーメーション”、“カーボンニュートラル”を牽引する人材育成施策（「**大学・高専機能強化支援入学者支援事業**」）を推進している大学（理工系）に授業での気象情報活用の可能性をヒアリング（2月実施予定）し、教育コンテンツ関連するニーズを発掘したい。

③ 気象データの活用拡大と創出価値を考える勉強会

- 基本的には、5年度の考察・議論はその途上にあることから、この方向での検討活動を継続していく。即ち、**創出サービスの価値として、経済的価値・個人生活上の価値・社会資産の価値の3種の創出価値の観点から、気象データ側の課題と利用サイドの課題の考察**を深めていく。
- 議論は徐々に深まっているが、一方で、より広範囲な視点での検討を進めるために、検討メンバー以外の方々との議論を行う機会についても模索していく。例えば、気象情報を指数化して分かりやすく提供するという**アイデア抽出的な活動を若い方々も交えて行う**などの討議以外の種類の活動も考えていく。

④ 扱いやすいオープンデータの形を探そう勉強会

- 作成した「お天気アプリ」（2027年国際園芸博覧会向け）の付加機能実装について、検討しつつ、**オープンデータの調査、取得方法、処理方法等の知見を深める**ことを目指す。
- 引き続き、新型コロナ、インフルエンザ等の感染状況、オープンデータの提供状況を確認しつつ、**知見を深めるディスカッション**を実施予定。

⑤ 気象データxIT勉強会：気象データの活用に必要なIT活用力を身に着けよう！

- **メンバー各自のビジネスや関心に基づく気象×○○の分析や技能習得**を、勉強会の共助のもと積極的に展開する（ただし義務とはしない）。
- メンバー全員を対象とするオンラインの会合を月例で開催し、引き続き、**①WXBCテクノロジー研修教材のブラッシュアップ、②WXBC会員からのデータ処理にかかわる質問の解決、③自己研鑽の発表と意見交換**を行う。

（次頁へ続く）

⑤ 気象データxIT勉強会：気象データの活用に必要なIT活用力を身に着けよう！（続き）

● WXBCテクノロジー研修「気象データ分析チャレンジ！」における教材開発と講師を引き続き担当する。

当初案として、下に示す5講座の開催を計画する。（③～⑤はいずれもPython版）

- アメダス気象データ分析チャレンジ！入門（Excel版）
- アメダス気象データ分析チャレンジ！（Python版）
- 気象庁GPVデータ分析チャレンジ！入門
- 気象庁GPVデータ分析チャレンジ！基礎編
- メッシュ農業気象データ分析チャレンジ！（農研機構が運用する研究開発用の気象データサービスを利用）

注：次年度の開始が予定されるクラウドサービス上での気象庁データの公開の実態によっては、再編成する可能性がある。

具体策 2) 「気象データアナリスト育成講座」への協力・支援

- ・気象庁からの依頼をもってカリキュラムの見直し作業に協力
- ・研修教材を参考資料として提供
- ・制度定着への協力・支援を継続

具体策 3) 「お困りごと相談窓口」試行

- ・WGメンバーを対象に、試行期間を2023年11月～2024年10月（予定）として試行中
- ・試行を通して、お困りごと相談の有効性を検証。有効と判断できる場合には次策を検討する

【スケジュール案】

- 年次開催**
- ・第4回人材育成WGオープンセミナー（2024年5月10日（金）オンライン開催予定）
 - ・第3回WXBC版ジュニアセッション（日本気象学会の協力を得て8月にオンライン開催を予定）
- 月次開催**
- ・人材育成WG 全体会議（毎月第3金曜日午後）
 - ・グループ別勉強会（毎月第3金曜日の全体会議の終了後あるいは別日に開催）
（日々の情報・意見交換にはSNS等を利用）
- 随時開催**
- ・グループ別勉強会交流プログラム（交流会、情報/意見交換会等）
 - ・「WXBC気象データのビジネス活用セミナー」（ビジネスWG+事務局との共同企画&運営）
 - ・「WXBC気象データのビジネス活用セミナー（データ解説編）」（事務局との共同企画&運営）
 - ・「気象データ分析チャレンジ！」（アメダスデータ、メッシュデータ(アンサンブル予報データを含む)）
 - ・「気象データアナリスト育成講座」ガイドライン検討委員会
 - ・「WXBC版ジュニアセッション発表校」顧問の先生方との意見交換会
 - ・お困りごと相談窓口

【設立10年に向けて】

気象に関わる人材の育成をもって気象データのビジネスへの利用増大、市場の確立を目指し、特に下記の事項に注力していきたい

1. 気象ビジネス推進の先導者を一人でも多く輩出すること
 - ・グループ別勉強会の活動テーマの拡充（例えば、農業以外の産業分野等）と新規メンバーの参加促進で知見とスキルの深化
 - ・ユーザー側とシーズ側の連携・協働の場づくりを通して知見とスキルの深化
 - ・外部研修機関による「気象データアナリスト育成講座」の内容充実と制度定着に向けた協力・支援
2. 気象ビジネスの今を担う若手の現役世代の育成、次世代を担うジュニア世代との交流
 - ・若手にとって魅力的でやる気が起こるテーマと活動方法の工夫、アプローチの検討